

【 前 回 】

◎現状／課題

○ごみ量の減少

- 人口減少に伴うごみ量減少により、適正な処理体制の構築が必要。
- 小規模施設（鎧潟、豊栄）では処理経費が高く、また、余熱の十分な活用ができていない。

○施設の老朽化

- 稼働年数 亀田：約 22 年、鎧潟：約 17 年、豊栄：約 38 年
- 全国的に 25 年程度で更新している施設が多い。
- 施設の老朽化により故障等のリスク増

◎今後の方向性

○施設の更新及び統合

- 老朽化した施設を更新。
- 今後のごみ量を踏まえ、点検・故障時のリスク、既存施設の活用、費用、CO2 排出量の観点から施設数を検討。
- 現在の 4 施設を 2 施設（新田、更新施設）に統合

○施設特性を活かした付加機能の検討

- 更新施設では、廃棄物発電の増強・活用、余熱の多用途への利用、防災拠点、環境教育の場など付加機能を検討

【 修 正 】

◎現状／課題

(現 状)

- 市町村合併時、6つの焼却施設があったが、統合を進め、現在は4施設で処理を行っている。
- 4施設の稼働年数は、新田清掃センター：約7年、亀田清掃センター：約22年、鎧潟クリーンセンター：約17年、豊栄環境センター：約38年であり、全国的な施設更新年数（25年程度）に近い、もしくは超えた状況となっている。

(課 題)

- 将来的に、人口減少に伴いごみ量が減少する見込み。
- 鎧潟クリーンセンターや豊栄環境センターのような小規模施設では処理経費が高いたとも、発電や熱利用などの廃棄物エネルギーの活用が十分にできていない。
- 老朽化により故障等のリスクが増加するため、施設更新を検討する時期を迎えている。

◎今後の方向性

- 安定かつ効率的な処理体制を構築するため、施設更新と統合を進める。
- 焼却施設については、平成24年竣工の新田清掃センターの稼働を前提とし、点検・故障時のリスク分担、稼働コスト及びCO₂排出量の低減の観点を踏まえ、現在の4施設から新田清掃センターと更新施設の計2施設体制で進める。
- 粗大ごみや不燃ごみ、飲食用缶の処理を行う破碎・選別施設については、稼働状況や今後のごみ量を踏まえ、統合や民間処理への移行を推進する。
- 施設の廃止により、市民サービスが低下することがないように、自己搬入ごみの受入を行う中継施設の配置についても検討を進める。
- 焼却施設の施設整備については、中央集中監視や運転の自動化などのIoT・AI技術を活用し、効率性や安全性を向上させる手法を検討する。